

方丈記と東日本大震災

Hojoki and the Great East Japan Earthquake

Abstract

When predicting disasters, such as an earthquake, we find out regularity out of classic data. And it is made reference of countermeasures against calamities. However, we thought "Should we believe what is written in ancient book as a fact?" Then, we decided to investigate about the credibility of classic data by making into an example "Hojoki" written by Kamo no Chomei read over by many people after the Great East Japan Earthquake.

1. 目的

地震対策の資料として、古典を利用することの危険性について検証する。

2. 方法

一例として、方丈記が書かれた過程を調べ、古典資料にどこまで信憑性があるのかを考察する。

3. 結果

作者が体験した災害そのものについての記述は、事実関係の存在が微妙であると思われる部分があった。

4. 考察

古典は古ければ古いほど事実を知るための『記録』としては適さないが、著者や当時の人々の心情や思想についての記述は、現代の日本人が『教科書』にするべきもの。

5. 結論

災害対策は予想・予測に頼らず、日頃から防災意識を持つことが大切。古典からは事実というよりむしろ精神的な部分を取り入れ、災害の悲惨さや被災した人々の心情を知るために役立てるのがよい。

*引用文献

方丈記

*キーワード

災害対策、古典、歴史哲学